

2) 琵琶湖の水ヨシ群落面積Ⅱ－平成14年度調査と昭和49年度調査の比較

西森克浩・栗野圭一・岩崎治臣・山中 治・津村祐司

【目的】

水ヨシ群落面積の変化を調べる。

【方法】

今年度の水ヨシ群落調査結果と昭和49年度に現場が行った水ヨシ群落調査結果とを比較する。

【結果】

平成14年度の水ヨシ群落の総面積は80.4haで、昭和49年度の99.2haの81%であった。天然ヨシ群落だけをみると総面積は71.0haで昭和49年度の72%であり、ヨシの造成が重要な役割を果たしていることがわかる。

天然ヨシ(写真1)では、株立ち(写真2)になっているものが散見される。ヨシは水深約1m以浅の沿岸域と陸域に生えるが、これは砂の流失などによって、ヨシが衰退している過程であると思われる。

造成ヨシ(写真3)は、水深を浅くするために盛土をして、その流失を防ぐために石が敷設されている。また、風波でヨシが傷つけられないよう消波柵が設けられている(写真4)。

ヨシの減少が激しいのは、野洲川北流～木浜港と余呉川～姉川で、それぞれ12.9haと11.9haが消失していた。ヨシが大きく増加したのは安曇川南流～石田川と瀬田川～和邇川で、それぞれ5.1haと4.3ha増加していた。

写真1 天然ヨシ



写真2 天然ヨシ

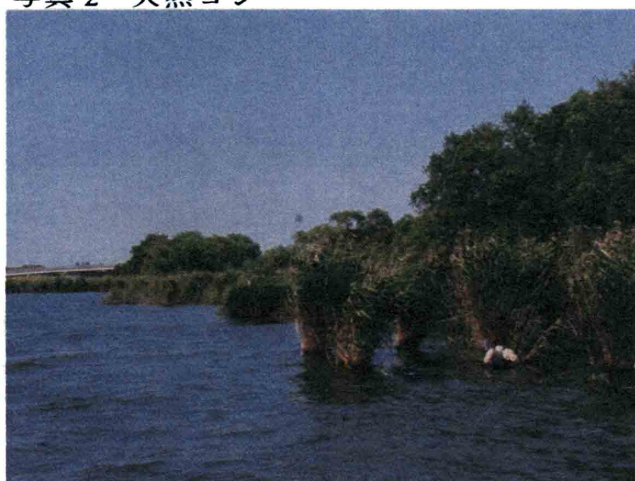


写真3 造成ヨシ



写真4 造成ヨシ

